

《薬局サーベイランスコメント》

『2020年第1週の推定患者数は約39万人と減少したが、今週（第2週）より再び急増し、インフルエンザの流行は本格化していくと予想される』

薬局サーベイランス (<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanijyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2019/2020年シーズン）の2020年第1週（12月30日～1月5日）のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は約392,000となり、前週の値（第52週；約880,000）よりも大きく減少しました。これはインフルエンザ患者を診察する多くの医療機関が冬期休暇であったことが大きく影響していると考えられます（図1）。一方、週明けの月曜日（2020年1月6日）の推定患者数は約169,000と今シーズンでは第52週の月曜日に次ぐ高い値となっており、インフルエンザの患者数は今後再び増加していく可能性が高いと考えられます。

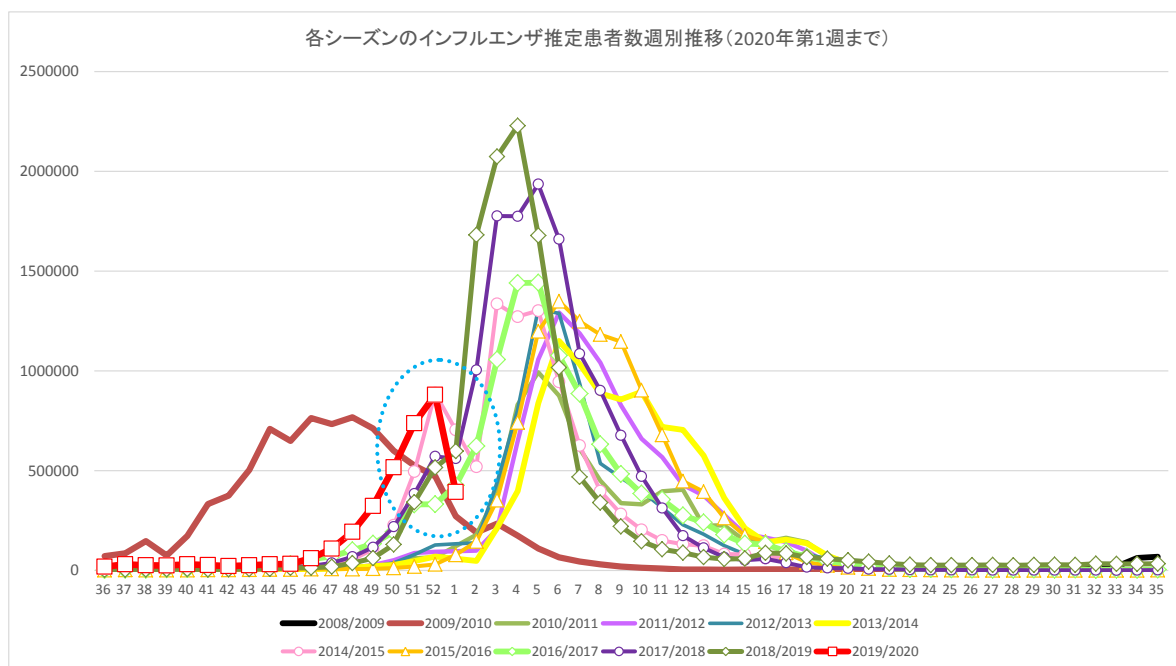


図1. 過去11シーズンと今シーズン（2019/2020年シーズン）の2019年第36週～2020年第1週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019年第36週から2020年第1週までの累積の推定患者数は約3,477,000であり、2019年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は2.76%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳（13.53%）、10～14歳（9.23%）、0～4歳（6.87%）、40～49歳（2.97%）、30～39歳（2.92%）、15～19歳（2.81%）、20～29歳（1.89%）の順と

なっています（図2）。

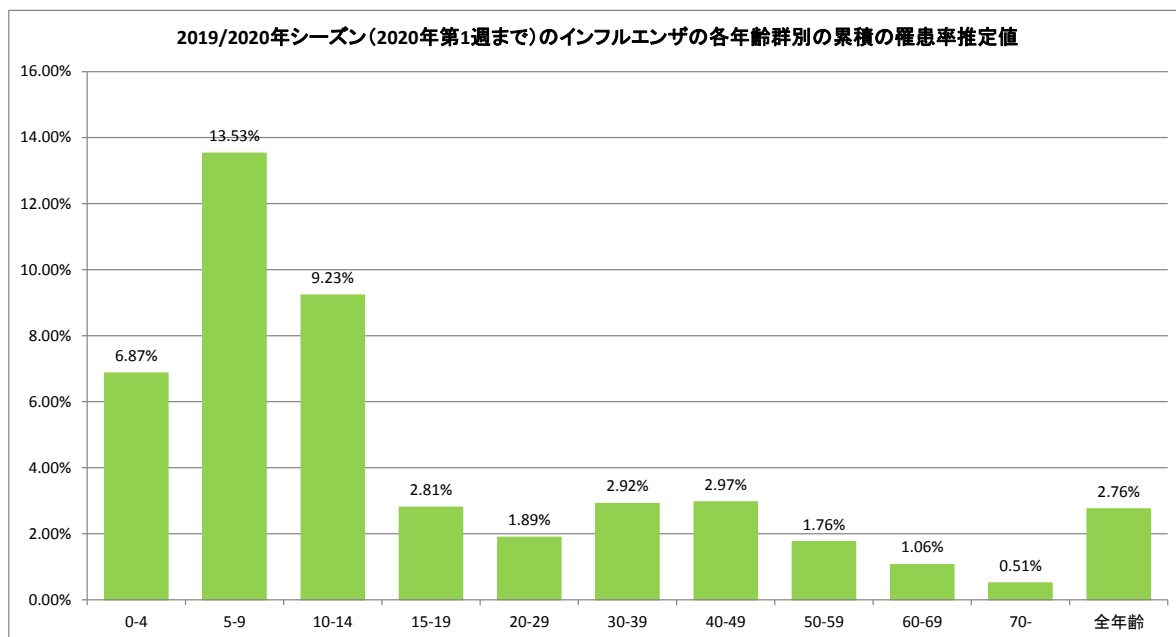


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2019年第36～2020年第1週、累積推定患者数=約3,477,000）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（1,329 検体解析）は、A/H1pdm が93.2%と多く、次いでA/H3（A香港）亜型4.0%、B型2.8%の順となっています。

2020年第1週のインフルエンザの推定患者数は減少しましたが、冬季休暇あけの第2週以降再び急増し、インフルエンザの流行は本格化していくと予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。

2020年1月7日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則